

過去から現在へ

現在から未来へ

較糸ぐ

山岸 果澄

平成三十年八月二十日に「ぼくたち、わたしたちのニッポンの祭り2018」が行われました。出演団体は計八団体で、北海道、愛知県、島根県、長崎県など様々な地方がありました。海外団体もありました。復興支援枠として、岩手県、熊本県も参加しました。各団体、「ふるさとの芸能」として、日本青年館ホールで集まったお客さんに披露しました。「ふるさとの芸能」は団体ごとに違い、多種多様でその地に現在まで継承されてきたものでした。

大宮神楽

大宮神楽は、岩手県の田野畑村の伝統芸能です。田野畑村の羽黒山山伏の永福院にまつて伝えられたといわれた山伏神社です。無病息災、家内安全、五穀豊穡などを祈り、舞をする神楽です。今回は田野畑小学校の子供達が行った「綾遊び」を行いました。綾遊びは子供達に孫繁栄の仕事を舞に表したものです。遊びの道具として使われていたと思われ、綾棒を使い、二人組になり、相手と息を合わせて踊るところがとても印象に残りました。子供達はお客様を喜ばせられるよう思いを込めて踊りました。

南田島の足踊り

雑子に合わせて人がお面をかぶり、踊るのが普通ですが、埼玉県の南田島では人形浄瑠璃にヒントを得て、足に面をつけて踊る「足踊り」があります。演者が仰向けに寝て、両足を使って人形を操ります。昔は布を足にまいていたのですが、今は改良されて靴のようになっていて、いるそっくりです。今回は、四人の人が足踊りをしていました。全員でそろって踊るのではなく、一人一人がバラバラにやっているので、四角に見えました。間をずらして踊っていました。

土場の鹿子舞

「土場の鹿子舞」は、北海道南西部の日本海側に位置する江差町の柳崎地域で伝承されている民俗芸能です。土場鹿子舞には、雄鹿子、雌鹿子、白鹿子という三匹の鹿子が登場し、雌鹿子を巡る雄鹿子の争いと和解が、唄や雑子とともに演じられています。子供達はストリーが見ている人に伝わるように表現力も大切にしています。子供達は、土場鹿子舞を未来へ繋いでいくために自分が土場鹿子舞をやり、受け継いでいくことを思っています。伝統芸能は子供達によって繋がれています。